



今次大統領・国民議会選挙実施の意義

- 独立以来初の本格的な民主的選挙。
- 包括的和平合意に基づき、国内和平・国民融和を達成するため、極めて重要。
- 我が国を含む国際社会はコンゴ(民)の和平プロセス及び選挙プロセスを全面的に支援。

これまでの政治プロセス

1998年	コンゴ民主共和国紛争勃発
1999年	国連PKO (MONUC) 設立
2002年	包括和平合意締結 (12月)
2003年	統一暫定政権発足 (6月)
2005年	憲法草案国民投票 (12月18 - 19日)
2006年	憲法の公布 (2月18日) 選挙法の公布 (3月9日)

大統領選挙・国民議会選挙の概要

- 登録有権者数
 - 約2500万人（推定有権者数は約2800万人）
- 選挙区
 - 全土(11州)の州の下に選挙区を設置 全選挙区の数
は169選挙区。
 - キンシャサ特別州には4選挙区あり
- 大統領選挙
 - 候補者数33名(うち1名が直前の25日に辞退)
 - 有権者1名が候補者1名に投票し、全土で集計
- 国民議会選挙
 - 候補者数 9,647名（議席数500）
 - キンシャサ特別州の議席数は58で、立候補者数は3229名
(156政党の候補者及び無所属の候補者(308名))

キンシャサ市内の治安状況

(外務省HPより)

- 紛争等による社会・経済情勢の悪化、国民の生活難の深刻化に伴い、ストリートチルドレン、失業者によるスリ、引ったくり等の窃盗事件が多発。
 - 夜間、銃器を使用した軍人や警察官等による略奪事件が全国の都市部を中心に発生。
 - 首都キンシャサでは外国人に対する強盗事件や私服警察官を偽った窃盗事案(含む未遂)もしばしば発生。
- (滞在中の事件)
- 大統領選挙有力候補者の支持者達が、市内のスタジアムで集会を開き、その後興奮した支持者らと警察が衝突し死者が出る事件が発生。

安全面では細心の注意を払う必要あり。

選挙直前のキンシャサ市内の様子



候補者のポスターや、横断幕が市内各所で見られた。



独立選挙委員会(CEI)による横断幕「みんなで選挙に参加しよう」



CEIの啓発用ポスター「私は投票します。あなたは？」

選挙直前のキンシャサ市内の様子(2)



有力な大統領候補の一人、ジャン・ピエール・ベンバ。



現職の暫定大統領、ジョゼフ・カビラ。対立候補の支持者たちがカビラのポスターをはがそうとしている。



バスに鈴なりになった大統領候補者支持者たち

投票・開票のプロセス

- 投票所、投票センター
 - 全土の投票所の数：49,746ヶ所（昨年末の憲法国民投票の際は約31,000ヶ所）
 - キンシャサ特別州の投票所の数は8,518ヶ所。
 - 投票センター（キンシャサ特別州では1,892ヶ所）の下に投票所が4～5ヶ所設置されている。
- 投票所では以下の要員を配置
 - 投票所所長1名、補佐役2名、書記職1名、補佐役代理1名
 - 投票期間中、上記3名以上が常に在室する必要あり。
- 投票終了後、投票所は開票所となり開票作業を行う。
- 投票センターは、投票所ごとの開票結果をとりまとめ、集計センターに移送。集計。

キンシャサ市内の投票所



キンシャサ市内中心部では学校の教室が投票所として利用されていた。



キンシャサ市内の投票所(2)



市内でも中心部から離れると屋外に設置された仮設投票所も見られた。



国際選挙監視員の役割・意義

- 中立的な立場の維持
 - 選挙の実施に介入しない。
 - 当該国の法令に従って活動。
 - 不正がある場合も、現場では結果の記録に留める。
- 民主的な選挙実施への貢献
 - 選挙プロセスの信頼性、透明性を高める。監視員の存在は不正防止の効果あり。
 - 監視員の現場での質問で不正が防止される場合もある。
 - 国際監視団の存在が選挙ムードを高め、国民の参加者意識の高揚に貢献。
- 投票所職員の士気向上
 - 監視員は正確な作業への「応援団」としての役割もある。
- 開票結果の受け入れに貢献
 - 事後の評価、報告を通じて、国民の選挙結果への信頼性の向上を促進し、特に選挙に負けた勢力に対して結果の受け入れを促す一助となる。

日本選挙監視団の構成

- 総員8名
 - 国家公務員5名
 - 内閣府(3名)、外務省(2名)
 - 民間3名
 - 選挙支援専門家、国際平和協力研究員(2名)
- 基本的に投票日当日の監視活動は1チーム3名×2チーム(計6名)にて実施
 - 他の2名は本部要員として監視チームを支援
- 現地NGOとの連携
 - 投票日当時、現地NGOのRENOSECより2名の要員の派遣を得た。監視活動のみならず、安全確保にとっても有益

日本選挙監視団(コンゴ(民)国際平和協力隊)



在コンゴ(民)日本大使公邸での記念撮影



現地の隊本部でのミーティング

日本選挙監視団の任務概要

- 期間
 - － 7月23日(日)～8月3日(水)
- 調査・監視対象
 - － 選挙プロセスに関わるすべての機関、関係者
- 活動内容
 - － 選挙プロセスの進行の監視・検証・評定
 - － 基本的に我が国監視団のみで活動
- 活動場所
 - － キンシャサ市内の選挙区(キンシャサ1～4)

日本選挙監視団の活動(準備状況)



- 投票所における準備状況の監視
 - 投票所職員の研修
 - 選挙関連物資の準備状況、保管状況の確認



日本選挙監視団の活動(準備状況)



訪問した投票所では、研修中の投票所職員から歓迎されるのみならず、我々の訪問の機会を捉えて、国際選挙監視員の扱いについての説明を行う一面もあった。



熱心に研修に聞き入る投票所職員たち

日本選挙監視団の活動(情報収集等)



- 現地関係者と面談し、選挙関連の最新の情報を得る
 - メディア関係者
 - CEI関係者
 - 国連関係者
 - 日本大使館関係者
 - 他国外交団
 - 地元NGO・国際NGO
- 他の主要な国際選挙監視団との情報交換、意見交換も重要
 - UNOPSによる国際選挙監視団向けの研修に出席
 - EU主催の大統領候補者と国際監視団の対話会合、国際選挙監視団の連絡会議にも出席。

日本選挙監視団の活動(情報収集等)



現地日本大使館での打ち合わせ。今次派遣にあたって、日本大使館からは大きなサポートを得た。



その日の情報収集の結果はミーティングで隊員全員と共有、ミーティングが夜遅くまで行われることもあった。

投票日の当日の活動(開所状況)



要員の行動開始は午前5時(投票所の開所は午前6時~)



投票所前の掲示物(投票所番号、候補者リスト等)を確認する。

- 投票所の開所前の状況の監視
 - 投票所の設置状況
 - 職員の配置状況
 - 開始時間の確認
 - 開所手続きの確認



開所作業を行っている投票所職員

投票日の当日の活動(投票状況)



投票所職員に質問する監視要員



投票が行われるプロセスを監視

- 投票状況の監視
 - 職員の配置
 - 有権者の確認
 - 投票用紙の配布
 - 秘密投票の遵守



訪問した時点での投票者数も確認する。

投票の状況



1. まずは有権者の確認



2. 初めに大統領選挙の投票を行う



3. 次に国民議会選挙の投票。投票用紙はA1サイズが6枚で大変。



4. 最後に二重投票防止用のインクを指につけて投票作業終了。

投票の状況(2)



大統領選挙投票用紙



国民議会選挙の投票



投票所の外で順番を待つ人々



選挙監視を行う要員

投票日の当日の活動(閉所状況)



閉所直前の投票所。投票者の数も少なくなってきた。

- 閉所状況の監視
 - 職員の配置
 - 閉所時間の確認
 - 閉所手続きの確認



閉所直前の投票所(午後5時~6時)。

投票日の当日の活動(開票状況)



大統領選挙の開票を開始(閉所直後から)

- 開票状況の監視
 - 適正な開票手続
 - 有効票、無効票の確認
 - 投票者、全投票数の確認等



国民議会選挙の開票(大統領選挙開票後)



巨大な投票用紙の開票作業は極めて困難

投票日の当日の活動(開票状況(2))



開票作業は夜間も継続した。電灯もない室内で、ハロゲンランプで作業を継続する職員たち。



根気よく作業を続ける投票所の職員たち

開票作業(翌朝再開)



泊まり込んだ職員が開票作業を再開



投票所入り口に掲示された大統領選挙の開票結果。



投票箱で作った仕切りの反対側で子供に食事を与える母親

集計センターの状況



集計センターの職員たち



集権センター室内に集められた集計結果表

- 集計作業の予定は遅れ、投票日の翌々日から作業を開始。
- 現在も集計作業中。



集計センターには各投票所から輸送された物品が集積されたが、重要書類や投票箱も含め屋外に散乱している状況。ただし、警備は厳重なため部外者は入れない。

とりあえずの評価 (詳細は監視団所感参照)

- 多少の技術的な問題や、一部地域において数件の事件が発生を見たものの、選挙が概ね平穏な環境の中で自由かつ公正に行われたことを前向きに評価。
- 不慣れな面もあったが、種々の困難を乗り越え、本格的な民主的選挙が概ね順調に実施されたことを歓迎。
- 今後のプロセスが適正に実施され、結果を全ての関係者が受け入れること、右を踏まえ、国造りを進めていくことを期待。

今後の選挙日程

- 8月20日 大統領選挙暫定結果発表
- 8月31日 大統領選挙最終結果発表
- 9月4日 国民議会選挙暫定結果発表
- 10月29日 大統領選挙第二回投票
(決選投票)の実施
- 11月9日 国民議会選挙最終結果発表

評価及び今後の課題

- 4年ぶりとなる国際平和協力法による選挙監視が無事に完了。
- 監視の手法に関する経験の蓄積は重要。
- 安全確保に関し、現地に経験・土地勘のある要員は必要。現地NGOとの連携も効果あり。
- 今後の派遣についても、現地事情を考慮し、隊の規模、展開地域について判断していく。
- 選挙管理への関与や国際的な選挙監視活動への参加について、引き続き国内関係者との議論を行っていく。